

ガバナー月信



月信11月号

- ① ガバナーメッセージ
- ② 第1分区 IM
- ③ 第4分区 IM
- ④ 第6分区 IM
- ⑤ 長岡東 RAC 創立 20 周年記念式典
- ⑥ 第1回米山記念奨学委員長セミナー
- ⑦ 青少年交換帰国報告会・受入学交流会
- ⑧ 地区研修委員会
- ⑨ 財団委員会通信
- ⑩ 地区主要行事予定(11月・12月)
- ⑪ 新入会員紹介・訃報
- ⑫ コーディネーターニュース
- ⑬ ハイライトよねやま

国際ロータリー第 2560 地区
2023-24 年度

米山ガバナー事務所

〒951-8061 新潟市中央区西堀通七番町 1574
ホテルイタリア軒 B1
TEL : 025-222-2561 FAX : 025-222-2565



ガバナーメッセージ 「地区大会を迎えて」

2023-24 年度 ガバナー

米山 忠俊 (三条北 RC)

秋は、どんな行事にもふさわしい季節と言えます。今年もたくさんの行事が行われました。まず、10月11日と12日には地区大会記念親睦ゴルフ大会が行われ楽しいひとときを過ごしました。28日にはポリオ根絶のため笑顔で走る宮崎ガバナー（第2760地区）のサイクルチャレンジが行われました。

宮崎ガバナーの1度目のチャレンジは2022年10月1日から行われました。覚えていらっしゃる方も多いと思いますが、日本縦断チャレンジということで北海道宗谷岬から新潟県も大きく縦断して24日に鹿児島島の佐多岬で無事ゴール。チャレンジ大成功ということで多くの感動を呼びました。このチャレンジは、ポリオ根絶活動の広報活動と募金を目的として実施され、END POLIO NOWの真っ赤なシャツは新潟日報に掲載され、多くの人々のポリオへの関心を喚起しました。

さて、皆様はポリオという疾病についてどれくらいご存じでしょうか？ロータリーといえばポリオ、ポリオといえば小児まひという知識があるかもしれませんが、それだけでは少し足りないかもしれません。今月のガバナーメッセージでポリオについての知識を一緒におさらいしてみませんか。

ポリオ（小児麻痺）はポリオウイルスによって発生する疾病です。ポリオウイルスは人から人へ感染し、最も多いのは汚染水を通じた感染です。神経系を侵すこともあり、これによって身体のみひを引き起こす可能性があります。治療法はありません。世界からポリオを根絶しない限り、今後10年以内に、世界での年間発症数は20万件に上ると予想されています。しかし、幸いなことに、ポリオはワクチンによって予防できる病気です。実際、1988年以降、ワクチン接種のおかげでポリオの発症件数は99.9%も減少しました。そして、現在ポリオウイルスが常在しているのはパキスタンとアフガニスタンのわずか2国です。

世界中でポリオの根絶に向け、ゴールまであと少しの段階に差し掛かりました。END POLIO NOWのハンドメッセージがそれを象徴しています。もしポリオが世界から根絶されれば、それは人類が疾病根絶に成功した2例目となり、その偉業に貢献しているのがロータリー、つまり皆さんです。あと少し、皆さんの力で、未来の子供たちをポリオから救い出しましょう。

また、11月4日と5日には燕三条ワシントンホテルと燕三条地場産業センターで地区大会が開催され、たくさんの来賓と共に宮崎ガバナーも来られます。第2560地区のおもてなしの力で、皆様を歓迎し素晴らしい大会にしましょう。



第1分区IM

第1分区ガバナー補佐

長谷川 寿一（新発田城南 RC）

10月14日（土）第1分区のIMを新発田市
月岡温泉ホテル清風苑で開催いたしました。

参加総数：151名

今年のテーマは『整えましょう 地域の未来のために』です。

サブテーマ（1）失われた期間の改善（2）次世代に何を継ぐ（3）どうあるべきかこの地域各クラブ3つの中から1つについて発表していただきました。先が見えにくいと言われる今の時代に、守るべきものをしっかり次世代に伝え、改善すべきところはよりよい形を共に作り上げる、ロータリークラブとして何が出来るのか何をなすべきか、大いに考えさせられました。また、「地域と供にあるロータリークラブ」をどのような形で実践していくのか、既にいくつかの事例を持つクラブからの発表は自クラブの今後の運営において示唆に富んだものでした。一方で、国際ロータリーや地区など上部組織の在り方についての提言も示されました。

懇親会も、1時間強という短い時間ながら久しぶりの通常開催で、懐かしさを感じながら大いに盛り上がり、「手に手をつないで」「万歳三唱」で次年度も開催できることを願い、地域社会へ少しでも貢献できるようロータリアンとしてまた一歩前進していきたいと思えます。





「食う」「寝る」「遊ぶ」で ストレス解消

第4分区ガバナー補佐

小出 和子 (三条東 RC)

9月30日(土) ジオ・ワールドVIP に於いて、ロータリアンでもある滝沢三条市長はじめ、米山ガバナー、分区内の多くのロータリアンの皆様よりご出席いただき IM を開催いたしました。

米山ガバナーの方針のとおり、楽しいロータリー活動を行うためには、ロータリアン自身が健康でなければなりません。同時に家族や社員の健康を守ることも、経営者として大事な努めであると考えます。

また、マッキナリー RI 会長は、ご自身の体験から、メンタルヘルスの問題も重要視されており「予防ケアと治療が命を救うことになる」と述べております。

そこで、心と身体の健康について豊富な知識をお持ちの三宅 琢様 ((株) Studio Gift Hands 代表取締役) より『働く人のこころの取扱説明書』の演題でご講演を頂きました。

講師は、多くの企業の産業医として、社員の健康管理を任せられ、メンタル不調者との面談も行っており、これらの経験から、不調者の見極め方や、効果的な発症予防の方法、復職支援プログラムの作り方など、経営者として知っておくべき事や対処法などを判り易くお話し下さいました。誰からも喜ばれる経営を行う上で、役に立つ話が聴けてとても良い講演会でした。

その後は、IM のもう一つの目的である懇親会を行い、複数のクラブの人が同じテーブルになるように配置したため、他クラブの多くの人と交流ができ、ロータリーの心で友情を深めて頂けたことと思います。







第6分区IM(インターシティミーティング)を終えて

第6分区ガバナー補佐

庭野 昭二 (十日町北 RC)

2023-24年度新潟第6分区IMは「友情を深め、ともに雪国の未来に希望を」をテーマに9月30日レポート十日町を会場に開催されました。

記念講演は「地域の未来は自分たちで創る！限界集落からの挑戦」と題して多田朋孔様よりご講演いただきました。多田様は京都大学を卒業され企業に勤務ののち2010年「地域おこし協力隊」として当地に関わった縁でご家族と共に移住されました。このような多田様の経歴に加え、廃村になりそうな集落をよみがえらせた実績と、将来に向かって挑戦されていることをスライドを用いて説明をいただきました。参会者も感銘を受けられたことと思います。当日会場外で発売した多田様自著の本も売り切れしました。

フォーラムは「自クラブの紹介と、奉仕活動の事例」というテーマで各クラブ会長より発表いただきました。これにはここ数年間交流がなかったことを鑑み分区内の各クラブの奉仕活動等を皆さんに知っていただくことと、年次の若い会員にロータリーを知ってもらい、これからの活動に参考にしていただくことでした。各会長からはクラブの歴史や現状の課題、奉仕活動で地域に感謝されているお話や、経費の問題で苦勞されている点など様々なお話が聴けました。質問も活発になされ、意義のあるフォーラムになりました。

懇親会は魚沼地域唯一の弦楽合奏団「ムジカ・ルーチエ」さん17名による演奏に始まり、乾杯の後、料理と地酒を酌み交わしつつ懇親と友情を深め、最後に「手に手つないで」で全員一つの輪になり唄い、無事閉会いたしました。





長岡東 RAC 創立 20 周年記念式典

長岡東ローターアクトクラブ
会長
岡埜 隆彦

9月30日（土）長岡東 RAC は創立 20 周年を記念して式典と祝賀会をホテルニューオータニ長岡にて開催し、ロータリークラブ・アクトクラブ・OB の皆様に県内各地からご参加いただきました。今回の長岡東 RAC 記念テーマは「長岡をもっと好きに」です。

磯田市長をはじめ、多くのロータリアンや地区代表から祝辞をいただき、皆で感慨深いひとときを過ごしました。特に市長からは、毎年行っている「長岡花火大会後の早朝清掃ボランティア」に関して高く評価され、通年の活動の重要性を再認識する機会となりました。また、歴代会長に贈る感謝状の贈呈時には、彼らの熱い思いに触れ、心に残る瞬間でした。

記念事業の報告では、地域住民や長岡に来た学生や留学生、更には長岡市政との協力で行ったマルシェとチャリティーバザーを組み合わせた催し「ながおかオトナコドモ夏祭り」の成功を報告しました。また、この発表を共に手を取り合って頑張った長岡の子供の教育を支援する団体の米百俵財団様とウクライナの戦争孤児の医療・住居支援を行うチームイリナ様へお伝えしたところ賛辞の声をいただき、奉仕の喜びを改めて感じることができました。

基調講演では、長岡造形大学の准教授であり、相模原ローターアクトクラブでもご活躍の福本様をお招きし、世界でのローターアクトクラブの活動経験や国内でのアクト活動の取り組みについてお話いただきました。質疑応答の場では、多くのアクターから質問が寄せられ、県内のアクト活動を更に盛り上げていこうという意欲が感じました。

祝賀会では、長岡を代表するアーティスト「ひなた」が、長岡の郷土愛をテーマにした曲を披露し、会場は長岡を愛する気持ちで一杯になりました。

無事に今式典が終了し、メンバー一同安堵の気持ちでいっぱいですが、今後はクラブの「原点を忘れずに、これまでの歩みを振り返る」活動をしていく所存です。

これも地区内のアクターやロータリアン様のお力添えの賜物であり、心より感謝申し上げます。

25年、30年と続けられるよう「長岡に愛し愛される長岡東ローターアクトクラブ」となれるように文字通り粉骨砕身の努力を致します。今後とも長岡東 RAC を宜しくお願い致します。



2023-24 年度第 1 回米山記念 奨学委員長セミナー報告

米山記念奨学委員会
寄付増進委員長

米山 光紀 (新潟南 RC)

地区ロータリアンの皆さまには、日頃より地区米山記念奨学委員会活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、去る 10 月 7 日 (土)、ホテルイタリア軒にて、第 2560 地区の各クラブ会長・米山奨学委員長にお声掛けさせていただき、2023-24 年度第 1 回米山記念奨学委員長セミナーを開催いたしました。当日は米山ガバナーをはじめとした地区役員 16 名と、各クラブ会長・米山奨学委員長 61 名を合わせ実に 77 名の参加者で開催することが出来ました。

はじめに、奨学生の体験発表として、陳 惠萍さん (チン ケイヘイ、台湾、奨学期間：2009 年 4 月～2011 年 3 月、柏崎 RC) ドァン ハイ イエンさん (ベトナム、奨学期間：2019 年 4 月～2021 年 3 月、長岡西 RC) の 2 名の米山学友より奨学生当時の体験や心境などがよくわかる内容で米山記念奨学事業への感謝と今後学友としてどのようになっていきたいかといったお話をいただきました。

続いて、今回の講演のために遠方よりお越しいただいた第 5 代よねやま親善大使のイメン ジェブリさん (チュニジア、奨学期間：2019 年 4 月～2021 年 3 月、国際ロータリー第 2680 地区 西宮 RC) より、米山奨学生時代の出会いと学びを通じてどのように成長したかや、感謝の気持ち、現役奨学生と学友に対するメッセージなど多岐にわたる内容を分かり易く講演していただきました。

その後、渡辺雅志奨学生学友委員長 (長岡西 RC) より、去る 8 月 5～6 日につくば国際会議場で行われた米山学友による世界大会「再会 in 関東」への参加報告をさせていただき、私からは米山奨学事業の成果と寄付増進についての力強い後押しをお願い致しました。最後に (公財) ロータリー米山記念奨学会理事である新保清久パストガバナーより、米山奨学事業への協力に対する感謝の意と、日本独自の国際理解・親善・平和を推進する米山奨学事業に対して、変わらぬご支援をお願いいたいて、セミナーを締めさせていただきました。

米山記念奨学事業のさらなるご理解のために

地区米山記念奨学委員会では、10 月が米山月間でありましたが、年間を通して米山学友や米山奨学生による卓話や委員会メンバーによる米山記念奨学事業のご説明など、各クラブに伺い出来ます。是非お気軽に地区事務所にお問い合わせいただきご依頼ください。ニーズにお応えできるよう対応させていただきます。米山記念奨学事業の広報活動にご協力をお願い致します。







2023-24 年度青少年交換帰国 報告会・受入学生交流会

青少年交換委員会
委員長

坂上 彰平 (豊栄 RC)

10月7日ホテルイタリア軒で帰国報告会・受入学生交流会を行いました。

まず始めに、米山ガバナーに「良い経験をして来たと思います。報告を聞かせて頂きます。」とご挨拶を頂きました。

斎藤玲奈さんは、アメリカに短期交換に行き、素晴らしいホストファミリーに出会えて感謝していました。また、犬アレルギーで呼吸困難になり病院で治療を受け貴重な経験をしてきたそうです。大事にならないで良かったと思います。

大竹萌琴さんは、ドイツに短期交換に行きました。以前のドイツからの交換留学生、バップファミリーの所にホームステイをしてから、本来の交換留学先のフィスターファミリーの所に新幹線で向かいました。「ドイツの新幹線のシートは頭をホールドしてとても快適でした」とのこと。また、ホストファミリーには生のオペラ等を聴かせてもらったり、色々体験させて頂いたそうです。

大竹萌琴さんには、トラブルに備えていくつかのアドバイスをしてもらいました。出来るだけ荷物はトランク1つにまとめた方が良さ、ひとりで対処できないことはロータリーの方に連絡し助けてもらう事、ホストファミリーの予定など把握しておく事など、次回留学する方にアドバイスを残してくれました。

受入学生のミナ スタインストレーサーさんは、ドイツの自分の町の事を話してくれました。新潟に来てから二ヵ月位ですが、大変日本語が上手いと思いました。

最後に、南雲ガバナーエレクトに「貴方達は良い経験をしてきましたね」と講評を頂き、終了いたしました。





南雲年度 ガバナー補佐研修 パート2を修了して

地区研修委員会
研修小委員会

石黒 良行 (三条 RC)

8月19日に開催されました「南雲年度ガバナー補佐研修パート1」に引き続き、「南雲年度ガバナー補佐研修パート2」が10月1日にまちなかキャンパス長岡にて開催されましたので報告いたします。

南雲ガバナーエレクトの挨拶では、先般の研修パート1で受講されたガバナー補佐の前向きな姿を拝見し、心強く感じたことと励ましと敬意を表すお話が印象的でした。続く佐藤委員長も同様にアンケートを拝見しガバナー補佐の責務を十分に理解されていると実感していることや、受講されたガバナー補佐の前向きな発言が多方面から聞こえているとのお話に委員会としても心が熱くなりました。



南雲ガバナーエレクト挨拶



佐藤研修委員長挨拶

パート1では、高橋地区研修リーダーがビデオにてガバナー補佐の責務と役割や地区リーダーシッププランを3セッションに分けて講義、セッション間に質疑と補足を関川地区研修チーム員よりサポートしました。研修パート1後のアンケートでは、地区リーダーシッププランを再度説明してほしいとリクエスト多数のため、パート2の座学ではパート1での研修内容の確認も兼ねて地区リーダーシッププランを深掘りした内容を座学で行いました。更にワークショップとして関川地区研修チーム員がファシリテーターとなり、ガバナー補佐の皆さんと「ディスカッション形式」で語り合いました。このスタイルは高橋地区研修チームリーダーによると「次年度の地区研修リーダーのためのセミナー」でRIが今後全世界のロータリアンに求める研修スタイルとのこと。ディスカッション前にラーニングセンターや座学で学び、ディスカッションでグループ討議して意見交換することでアイデアを出し合い共有し知識と技能が向上します。ディスカッションでは、「ガバナー補佐の役割」や「担当クラブとどのように向き合うか」、「ガバナー補佐として実施してみたいこと」についてアイデアを出し合い、ガバナー補佐の役割で重要なクラブ支援について積極的な意見交換で盛り上がりま

した。その後、高橋地区研修チームリーダー主導により実践的な模擬クラブ協議会が実施され、臨場感ある模擬トレーニングはかなり参考になったと思います。



ディスカッション



模擬クラブ協議会

地区研修委員会が支援する次回の研修は、12月9日開催予定の「南雲年度クラブ会長幹事研修会」ですが、研修会では、第一部の座学と第二部のワークショップで構成されます。佐藤委員長より研修会の目的や運営を説明するとともに、ワークショップではガバナー補佐が担当するクラブ会長幹事と信頼関係を構築し、P E T S に向けての準備やクラブ支援についてディスカッションする運用になることを説明いたしました。会長幹事の皆様におかれましてはご出席いただきますようお願いいたします。



南雲年度会長幹事研修会の説明

また、第3分区 金子洋ガバナー補佐が、10月4日にアオーレ長岡にてガバナー補佐研修パート2の補講を受講されました。当日は、南雲ガバナーエレクト、阿部地区幹事が参加され第二回南雲年度ガバナー補佐会議のダイジェスト版が実施され、南雲年度ガバナー補佐研修パート2の補講を関川地区研修チーム員により全編実施されました。補講とはいえ丁寧な進行と10月1日さながらの熱のこもった講義でした。



南雲ガバナーエレクト挨拶



南雲年度ガバナー補佐研修パート2 補講



最後に、ガバナー補佐研修パート1、パート2ともに本講も補講も無事修了し、ガバナー補佐全員に修了証が授与されました。地区研修委員会による地区研修がいよいよスタートしたと身が引き締まる思いでした。



第1分区分 風間ガバナー補佐



第2分区分 山崎ガバナー補佐



第4分区分 杉山ガバナー補佐



第5分区分 阿部ガバナー補佐



第6分区分 吉田ガバナー補佐



第7分区分 和泉ガバナー補佐



第3分区分 金子ガバナー補佐



ガバナー補佐研修パート2 補講 集合写真



ガバナー補佐研修パート2 集合写真

世界でよいことをしよう

財団委員会
通信

「ポリオ根絶のために笑顔で走る」

10月24日は世界ポリオデーです
世界ポリオデーに向け会員の応援をお願いいたします！



【世界ポリオデー迫る：一人ひとりの行動の喚起にご協力ください】

ポリオ根絶への行動が求められる中、私たち一人ひとりに、大きな変化をもたらす力があります。ポリオは依然として世界的な脅威ですが、力を結集すれば終止符を打つことができます。予防接種の重要性を広く知ってもらうこと、ポリオ根絶活動への参加を呼びかけること、ボランティアとして時間や専門知識を提供することなど、私たちの行動が子どもを身体まひから守るための波及効果を生み出します。この予防可能な病気で苦しむ子どものいない未来を築くために団結しましょう。

昨年、ロードバイクでの日本縦断を実行し、3つの重要なマイルストーンを達成した宮崎陽市郎さんに関するブログ記事をご紹介します。現在、宮崎さんはガバナーとしての責務を果たしつつ、今年10月に決行する新たな挑戦に向けて準備を進めています。次の記事をお読みいただき、そのリンクを多くの会員にご紹介ください。一人ひとりの行動を喚起するストーリーです。

『ポリオ根絶のために笑顔で走る』

昨年、ポリオ根絶のためのファンドレイジングを立ち上げ、ロードバイクで日本縦断を達成したガバナーエレクトが、今年はガバナーとして、ポリオプラス・ソサエティの推進のためにペダルをこぎます。第2750地区ガバナーの宮崎陽市郎さん（東京三鷹ロータリークラブ）が昨年11月に挑んだ道のりは、宗谷岬（北海道）から佐多岬（鹿児島）にいたる約2,750キロメートル。その走行距離は、米国メイン州にあるカナダとの国境から南端フロリダ州のオーランドまでの移動距離にも勝ります。平坦な道ばかりではなく、海岸沿いでは強風に襲われます。長く暗いトンネルではバランス感覚が麻痺し、経験者曰く、上り坂なのか下り坂なのか、まるで「空中をこいでいる」ような危険な状況に陥ることもあります。



昨年、ポリオプラス基金への寄付を募るため、自転車での日本縦断チャレンジに挑んだ宮崎陽市郎さん。ガバナーに就任した今年、ポリオプラス・ソサエティを促進するために新たなチャレンジに挑みます。

【人種差別のただ中でポリオと闘う】

米国の人種隔離政策のただ中でポリオ感染拡大防止に取り組んだ黒人医師や研究者たちのストーリー

マイロン・トンプソンさんに起こったことは、わずかな体の異変から始まりました。ポリオがアメリカ南部で猛威を振るっていた1949年、2歳の小さな幼児は高熱で苦しみ出し動けなくなりました。恐怖にかられた彼の母親は、近くにあるアラバマ州タスキーギの病院に駆け込みました。4本の円柱で支えられた玄関がある壮大な赤レンガの建物は、まるで威厳のあるホテルのようでした。そこではポリオに罹患した子どもへの対応に特化した医師や看護師が両手を広げて患者を迎え入れ、ただちに治療が始められました。病気の黒人の子どもが一流の治療を受けられたことがどれほど素晴らしい幸運だったか、トンプソンさんが気が付いたのは何年も後のことでした。彼が治療を受けたジョン A. アンドリュー記念病院小児麻痺センターは黒人大学のキャンパス内にあり、ポリオにかかった黒人の子どもの治療に特化した米国唯一の施設でした。当時、南部諸州の州法として存在したジム・クロウ法により、病院が黒人患者を追い返したり、受け入れたとしても場所を白人と分け低レベルの治療を施すことは当たり前のことでした。「ただ治療を受けたというだけではありません」と話すトンプソンさんの声は柔らかく控えめで、縁眼鏡の奥から真剣な眼差しが向けられます。「私への対応は尊厳にみちたものでした」

財団寄付に関心をお寄せください

一般的に寄付活動は、理由の如何に問わず、先ず自身が寄付対象に興味、関心を持つことで起こる自主的な行動と考えています。

しかし、ロータリークラブでは寄付活動を、「社会貢献のため」を目指し、「現在困っている、苦しんでいる人々を助け問題解決に近づけることで、より良い未来を実現するための手段のひとつ」とおいています。

以下の寄付目標は、ロータリー財団が標語に掲げる「世界で良いことをしよう」という主旨に基づいた様々な活動を進めるうえで、資金面を支えるとても大切なものになります。

それら様々な活動は、ロータリー公式 HP 等でもご確認いただけますので、是非ご確認の上、クラブ内への発信を通じて財団寄付へのご理解、関心を高めていただけますようご協力の程宜しくお願ひ申し上げます

2023-24 米山年度 地区寄付目標

- ・年次基金寄付 : 1人 150 ㊦ (10月レートでは 22,350 円)
- ・恒久基金寄付 : ベネファクター× 10名以上
- ・ポリオプラス寄付 (使途指定寄付) : 1人 30 ㊦ (10月のレートでは 4,470 円)
- ・ポール・ハリスフェロー : 新規認証者 54名以上
- ・ポール・ハリスソサエティ : 新規認証者 10名以上

年次基金寄付 (目標 150 ㊦/人 ⇒ 前年実績 : 127.61 ㊦/人)

年次基金寄付は、7つの重点分野に沿ってクラブや地区が奉仕プロジェクトに取り組む他、国際的な取り組みを支える大切な資金であり、ロータリー活動の基幹をなす大切なものです。

皆様から寄付をお預かりしてから3年間運用の後、寄付額の25%が一定の条件に沿いクラブで活用頂けます。よって、米山年度は2020-21佐藤年度にお預かりした年次基金寄付が基となります。

恒久基金寄付

恒久基金寄付は、未来において持続可能なプロジェクトを实践するために必要な財源となります。

基金は主に投資運用され、元金が支出されることなく、年平均5%の運用益により財団プログラムを恒久的に支えます。

ポリオプラス寄付（目標 30 ㉞/人 ⇒ 前年実績：25.70 ㉞/人）

※ポリオプラス寄付は、ビル&メリンダ・ゲイツ財団が2倍の上乗せをしてくれます

ポリオプラス寄付は、使途指定寄付として全額が「ポリオ根絶活動」に使用されます。

今年度 RI ゴードン・マッキナリー会長から7月10日に配信された「希望を生み出す：次年度に向けて 2023-24 ロータリー年度によろこそ!」に、下記のメッセージが含まれていました。（以下、原文イメージ）

ポリオ根絶の実現に向けた一押し

残されたポリオ常在国やその他の地域でポリオウイルスの伝播を食い止めるため、ロータリーと世界ポリオ根絶推進活動（GPEI）のパートナー団体が懸命に取り組んでいます。

今年度、私たちはポリオ根絶活動において非常に重要なときを迎えています。

世界の子どもをポリオから守るという約束を果たすまで、ポリオ根絶はロータリーの人道的な最優先事項であり続けます。

私たちには、この仕事を引き受ける勇気と、それを完遂するための粘り強さがあります。

私たちができること：endpolio.org/ja から情報をご覧ください、ご寄付をお願いします。

1988年、世界125ヶ国で35万件以上の新規症例が報告されていた野生型ポリオも、その後30年以上、ロータリークラブが活動の先頭に立ち、パートナー団体と協力し根絶活動を続けた結果、現在野生型ポリオの常在国は、アフガニスタンとパキスタンの二か国を残すだけとなり、6/28現在の2023年の新規症例は7例と根絶までもう一歩のところまでできています。

私たちロータリーはポリオの根絶が容易でないことは誰よりも承知しています。しかし、決して根絶を諦めません。一日も早い、ロータリー最優先事項であるポリオ根絶の日に向け、クラブ内でポリオ寄付へのご理解を高めご協力いただけますようお願い致します。

10月24日（火）は「世界ポリオデー」です。

この日は世界で初めてポリオワクチンを開発したチームを率いた医学者ジョナス・ソークの誕生を記念し、ポリオのない世界を目指す国際ロータリーによって設立されました。

ロータリーのポリオ根絶を願う想いと活動を地域に発信し、ポリオに対する地域理解を高めると共に、ロータリーの公共イメージ向上を目指し、各クラブの協力をお願いします。

ロータリーカード ～ポリオ根絶運動支援を目的としています～

ロータリーカードは、現在オリコマスターカードとダイナースカードの二種類あります。

それぞれ、利用額の0.3～0.5%（※カード種類によって違います）がポリオ根絶運動資金として活用され、当地区でも2022-23年度3月までの実績で52,649円がポリオ根絶運動資金となりました。

カードは個人、法人等ありますが、ダイナースクラブカードは事務の合理化、RIへの振込手数料無料、年会費不要など、クラブ運営にとってもたいへんメリットの多いカードですので、貴クラブでの導入をご検討ください。

第2560地区 2023-24年度9月末 会員数報告

R C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会員数			
			2023年 7月1日	9月末 会員数	うち女性	増減
第1分区(9クラブ)	/	-	378	381	37	3
新発田	3	31.5%	89	89	1	0
村上	4	18.4%	39	39	9	0
水原	4	28.1%	31	32	1	1
中条	4	100.0%	48	48	3	0
新発田城南	4	21.6%	38	37	3	-1
豊栄	3	15.4%	25	25	2	0
新発田中央	3	4.2%	45	48	5	3
中条胎内	3	52.8%	37	36	7	-1
村上岩船	3	22.2%	26	27	6	1
第2分区(9クラブ)	/	-	436	449	31	14
新潟	4	30.6%	78	85	3	7
新潟東	5	16.1%	61	61	7	0
新潟南	4	33.1%	114	118	8	4
佐渡	1	80.0%	5	5	0	0
新潟西	4	47.6%	40	42	2	2
佐渡南	4	13.9%	36	36	3	0
新潟北	3	35.1%	37	37	1	0
新潟中央	3	30.4%	22	23	0	1
新潟万代	4	51.2%	43	42	7	0
第3分区(5クラブ)	/	-	91	92	5	1
新津	3	20.0%	15	15	1	0
村松	4	46.2%	12	13	0	1
白根	4	28.1%	32	32	1	0
新津中央	3	38.5%	26	26	3	0
阿賀野川ライン	3	0.0%	6	6	0	0
第4分区(11クラブ)	/	-	364	369	29	5
三条	4	8.9%	53	56	0	3
燕	3	7.5%	39	40	3	1
加茂	4	6.9%	29	29	4	0
三条南	3	17.1%	42	41	2	-1
分水	4	71.0%	31	31	4	0
見附	3	5.0%	20	20	1	0
吉田	4	3.6%	28	28	3	0
三条北	4	9.4%	52	53	3	1
巻	3	7.1%	27	28	3	1
田上あじさい	4	14.3%	6	6	2	0
三条東	4	10.8%	37	37	4	0

R C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会員数			
			2023年 7月1日	9月末 会員数	うち女性	増減
第5分区(7クラブ)	/	-	287	299	30	12
長岡	3	68.8%	46	48	4	2
柏崎	4	2.4%	42	45	0	3
長岡東	4	24.1%	54	58	8	4
柏崎東	3	20.0%	40	40	2	0
栃尾	4	14.3%	21	21	1	0
長岡西	4	19.6%	48	51	4	3
柏崎中央	3	25.0%	36	36	11	0
第6分区(6クラブ)	/	-	125	123	11	-2
十日町	3	32.3%	31	31	4	0
小千谷	4	10.3%	31	29	2	-2
雪国魚沼	3	15.4%	26	26	3	0
十日町北	3	0.0%	15	15	1	0
津南	3	21.4%	14	14	1	0
越後魚沼	3	12.5%	8	8	0	0
第7分区(7クラブ)	/	-	309	312	21	3
高田	4	32.4%	68	71	4	3
直江津	3	36.1%	72	72	6	0
新井妙高	3	12.1%	32	33	1	1
糸魚川	3	95.2%	43	42	3	-1
高田東	3	63.9%	36	36	3	0
糸魚川中央	5	56.0%	25	25	0	0
越後春日山	3	81.8%	33	33	4	0

クラブ数	54 クラブ
7月1日会員数	1,990 人
7月末会員数	2,025 人
女性会員数	164 人
純増減会員数	35 人
My Rotaryアカウント登録率	29.1 %

※8月末会員数の訂正
 小千谷RC 29人(うち女性3人)⇒29人(うち女性2人)
 第2560地区 2,019人(うち女性163人)⇒2,019人(うち女性162人)

地区主要行事予定

2023年10月23日現在

年	月	日	行 事	会 場	
2023年 (R5) 米山年度	11月	ロータリー財団月間			
		4	(土)	米山年度 地区大会1日目 / RI会長代理歓迎晩餐会	燕三条ワシントンホテル
		5	(日)	米山年度 地区大会2日目	燕三条地場産業振興センター
		11	(土)	米山記念奨学生学友会総会	ホテルオークラ新潟
		11	(土)	2024-25年度長期派遣学生選考試験	ホテルオークラ新潟
		19	(日)	ロータリー財団地域セミナー	神戸ポートピアホテル
		20	(月)	第2回ガバナー会議	神戸ポートピアホテル
		20	(月)	RI会長歓迎晩餐会	神戸ポートピアホテル
		20	(月)	メジャードナー午餐会	神戸ポートピアホテル
		20	(月)	第2回ガバナーエレクト研修セミナー (GETS)、 ガバナーノミニー研修セミナー (GNTS)	神戸ポートピアホテル
		21~22	(火~水)	第52回ロータリー研究会	神戸ポートピアホテル
		25	(土)	高額寄付者感謝の集い	ホテルオークラ新潟
		未定		防災対応意見交換会	新潟市
	12月	疾病予防と治療月間			
		2	(土)	ガバナーエレクト渡米壮行会・地区諮問委員会・第1回地区運営会議	長岡グランドホテル
		3	(日)	全国危機管理委員長会議・青少年交換委員長会議	AP日本橋
		9	(土)	南雲年度クラブ会長幹事研修	ニューオータニ長岡
		23	(土)	ROTEX会議・第1回派遣学生オリエンテーション・クリスマスパーティー	ホテルオークラ新潟
		未定		インターアクト献血奉仕活動	新潟市・上越市

【新入会員】

(敬称略)

RC	氏名	入会日	会社名	役職	職業分類
村上	高橋 邦芳	2023.09.01	村上市役所	市長	行政
水原	梶山 貞芳	2023.09.01	割烹 花泉	代表	飲食業
柏崎	元井 春夫	2023.09.06	大和タクシー (株)	代表取締役	タクシー
新潟東	松本 祐貴	2023.09.15	みずほ証券(株)新潟支店	新潟支店長	証券業
三条北	坂内 優子	2023.09.19	坂内小児科医院	理事長・院長	小児科医
柏崎	長澤 智信	2023.09.20	(株)テック長沢	代表取締役	精密機械部品加工
高田	渡辺 太一	2023.09.23	アクサ生命保険株式会社上越営業所	所長	総合保険
新潟南	清水 彩子	2023.09.27	(株)sugar	代表取締役	衣料品販売



ラーニングモデルの狙いと期待効果



第3地域 ロータリーコーディネーター補佐 中川 基成(あすか RC)

今年度からロータリーの研修モデルがラーニングモデルへと変更されました。それに伴い、研修リーダーはラーニングファシリテーターと呼称変更されました。

教える・研修を受けるという受動的な研修方式から、ファシリテーターの進行によって分科会など参加者同士で互いが意見交換して学び合う方式への転換であります。

従って、ファシリテーターは分科会などのテーマの目的や道筋を示しつつ、参加者に対してその課題や解決策の問いかけを行い、参加者一人一人から様々なアイデアを引き出していくことで、参加者の気づきや理解を深めてやる気を喚起して、参加者の明日の行動を促すよう手助けをする役割を担います。

ファシリテーターの動詞形 Facilitate は<促す> <容易にする>という意味であり、指導したり教えたりすることではありません。できるだけ参加者から意見やアイデアをたくさん引き出す役割ですから、ファシリテーターの発言はせいぜい全体の1割ぐらいに抑えることはもちろん、全体進行の時間管理や議論の交通整理などが求められます。

かく言う私も、2023年1月のオーランドでの国際協議会にRI研修リーダー(当時はまだRIラーニングファシリテーターと呼称変更されていません)として参加しましたが、すでに分科会の進行はラーニングモデルを実践していました。国際協議会の1週間前に、研修リーダー同志でファシリテーター役と参加者役に分かれて何度も実践的な練習を重ねました。活発な意見交換を通して多くの学びを得ることができたと思います。

ロータリーのラーニングモデルには、多様な意見や考えを認め合い尊重する Diversity・Integrity, 明日の奉仕活動につなげる Service, 互いの意見交換により深まる Fellowship, ファシリテーターとして学ぶ Leadership の5つの中核的価値観(Core Value)が内包されていると思います。

そして、私たちは今後このラーニングモデルを実践することにより、クラブの中に学びの文化を育てることが可能となります。体験をもとに考え、参加者の基盤を広げて、積極的なかわりを促し、他者の意見や考えをリスペクトして、ファシリテーターとしてのリーダーシップを学ぶなど、ロータリーの目指すビジョン達成のための戦略的優先事項の実行が容易になるのではないのでしょうか。

ラーニングモデルがもたらすクラブ文化は必ず、会員はもちろんロータリーにかかわるすべての人たちにとって居心地の良いインクルーシブなクラブをもたらす、ひいては会員維持増強や新クラブ結成の契機になると確信いたします。



第3地域 ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 簡 仁一(茨木 RC)

10月24日の世界ポリオデーを前に、2つのイベントに参加しました。

第2710地区の「ポリオプラスチャリティリサイタル」は、尾道 RC と尾道東 RC の主催で、広島・尾道で開催されました。

会場は、重要文化財の吉原家住宅。寛永12年(1635)に建てられ、「現存する日本最古の農家」ともいわれるそうです。

豪農であった吉原家の暮らしを感じさせる趣ある空間で、広島出身の小島燎さんのバイオリンの音色に魅了されました。パリと日本を行き来して、国際的に活動される燎さんは、様々な社会の問題に目を向けておられますが、ポリオへの関心も深められ、支援の輪を広げようとする願いが伝わりました。

一方、第2660地区の「END POLIO NOW チャリティハロウィンパーティー」では、地区内26のローターアクトクラブと、ロータリー学友会の共催で実施されました。

1歳半でポリオを発症し、下半身の麻痺とたたかひながら、車いすテニスなどで活躍するアスリート、大前千代子さんのインタビュー動画を紹介するなど、楽しみながらポリオへの理解を深めようとする工夫が感じられました。ローターアクトクラブと学友会のメンバーが知恵をしまり、資金集めから企画運営までを手がけたそうです。



今年、30歳の小島燎さんに、ローターアクトクラブや学友会のメンバーら、それぞれのイベントで、「ポリオのない世界」を目指す、若い力のたくましさを感じました。

各地区、各クラブでも、様々なポリオ根絶に向けての奉仕活動を実施されたことでしょう。活動の大小にかかわらず、ロータリアン、ロータリーファミリーが、ともに手をたずさえ、熱意をもって取り組んでいくことが、最も大切だと思います。



日本人はなぜロータリーに惹かれたのか、そして今は何に惹かれるのか



第2地域 ロータリー財団地域コーディネーター 伊藤 靖祐(江南 RC)

1905年に生まれたロータリーが1920年の東京ロータリークラブ創設以来、日本人はなぜロータリーに惹かれたのか。職業の基盤に奉仕の概念を置く考え方は魅力的であったのではないのでしょうか。また、自治の精神にも惹かれたのでしょうか。お上に従っていけばよかった時代から、近代化のためには自分で考え行動する必要があり、民主主義の考え方の広まりとともに、自立の気風に満ちたロータリーは日本の実業界のリーダーに受け入れられました。また、英語のやりとりが新鮮であったと推測できるだけでなく、世界の同じような立場の人たちが同じ理念で仲間となることも魅力であったのではないかと考えます。ロータリーを通じてグローバルに考えること、世界とつながることは現在よりはるかに魅力的だったはずですよ。

20世紀初めには日米ともに所得格差は非常に大きくごく一部の人間に富が集中していたのが、ロータリー精神発展期である1920年代、1930年代にこの格差がリーダーの理想主義によって急速に狭まりました。しかし、アメリカでは黄金の1960年代が過ぎ、1970年代終わり頃から再び格差が新自由主義の名の下に大きく広がりはじめました。日本も経済構造的にはアメリカの影響を受けていますが、所得格差の面では、まだ平等性が残っていました。このことと並行するように、アメリカのロータリーで盛んであった職業奉仕の理念が高潔性という言葉を残して下火となりましたが、日本では職業奉仕こそロータリーの看板という考え方が強く受け継がれています。しかし、今の国際ロータリーの考えはそうではありません。

それでは、今、日本人はロータリーの何に魅力を感じるのでしょうか。大きな魅力の一つが、ロータリー財団の活動だと思います。一人ではできないことでも“Together”すればできることが魅力です。ビジョン声明そのものです。ロータリー財団は戦略計画の財務と企画部門の役割を持ちます。イリノイ州の非営利法人という位置づけで、国際ロータリーとは別組織になっていますが、ロータリー財団ではシェアシステムによりDDF+WFのグローバル補助金を使い「より大きなインパクトをもたらす」(優先事項)ができるのです。ロータリー財団には、ポリオプラス、ロータリー平和センター、VTT(職業研修チーム)、ロータリー奨学生と魅力ある価値を地域に国に世界に届けることができるという大きな魅力があります。広報機能を持つRPIC、マーケティング機能を持つRCとともに、RRFCとしてロータリーの価値を高めロータリー財団のmomentを最大化しロータリーの魅力の創造に務めGrow Rotaryにつなげていきたいと思っています。



10月は 米 山 月 間



公益財団法人ロータリー米山記念奨学会マンスリーニュース



ハイライトよねやま

vol. 283

2023年10月13日
発行

1. 日本語スピーチコンテストに現役奨学生が入賞

9月10日、熊谷市立文化センター文化会館で「第31回外国人による日本語スピーチコンテスト」が開催され、第2570地区の現役奨学生2人が参加しました。

18人が出場した同コンテストは、熊谷市内在住の外国人が母国と日本の違いや感じたことを日本語で伝え、相互理解を深める目的で開催されています。

ネパール出身のギミレ ウジョルさん(2023-25/熊谷RC)は、「あなたの中に何かが見えるか」というテーマでスピーチし、優秀賞を受賞。「例会での卓話経験のおかげで自信を持ってスピー



コンテスト後、壇上で記念撮影

チができました。他の参加者の発表を聞いて、勉強にもなりました」と感想を述べました。

ベトナム出身のロー、ティクイン チャンさん(2023-25/富士見RC)は「逃げる」というテーマで、時には辛いことから逃げる勇氣が必要であることを訴え、最優秀賞に輝きました。受賞に際し、「人前でのスピーチはとても勇氣が必要でしたが、この経験が今後の人生にきっと役に立つと思います。貴重な経験に感謝します」と、喜びをあらわにしました。最優秀賞を受賞した米山奨学生は4人目となりました。

2. 取引先で偶然学友と出会ったロータリー会員

さかのぼること7年前、第2770地区上尾西RCは当時、翁貞琮^{オウテイキョウ}さんの世話クラブでした。同クラブに所属していた水野正男会員は会員5人と一緒に上海と杭州を訪れ、翁さんに案内してもらったそうです。解散後、上海に残った水野会員は自身の取引先会社を訪問。日本語ができる社員として、汪雅萍^{オウヤサウ}さんを紹介されました。自己紹介を済ませ、上海を訪れた理由を説明する際、ロータリーや米山奨学生について話したところ、「実は、私も2004年から2年間、東京レインボーRCの米山奨学生だったんです」と言われ、予期せぬ出会いに驚いたそうです。以降連絡を取り合い、翌年に再度上海



汪さん(左)と、紹介してくれたハン社長

を訪れた時には、汪さんの計らいで米山学友たちを集めて懇親会を開くなど、中国の米山学友たちとの懸け橋にもなってくれているそうです。

今年8月に仕事で来日した汪さんと都内で再会した際、今や会社の重役として中枢の役割をこなしている姿を見て、改めて感銘を受けたそうです。水野会員いわく、日本語と英語も堪能で、仕事の範囲が広いという汪さん。同業の仲間であり、お互い世界を飛び回っているため、これまでにケルン、ハノーバー、上海や日本など世界各地で一緒に食事をするなど、7年前から偶然始まった交流は途絶えることなく、現在も素敵な関係が続いています。

海外米山学友会総会情報

◆韓国◆ 2023年11月18日(土) 17:00~ ソウルバシフィックホテル「南山ホール」開催
大会参加費 ₩50,000 (参加申し込み先: yoneyama@hanmail.net)

◆台湾◆ 2023年11月25日(土) 17:30~21:00 格萊天漾大飯店 Great Skyview 開催
大会参加費 NT \$ 2,000 (参加申し込み先: yoneyama.rotary@gmail.com)



3. 寄付金速報 — 大口寄付に感謝 —

前年同期比

+ 8.9%

普 - 1.5% 特 + 18.7%

9月までの寄付金は、前年同期と比べて8.9%増（普通寄付金:1.5%減、特別寄付金:18.7%増）、約3,760万円の増加となりました。昨年度は

9月に学友からの約7千万円のご寄付があり、今年度は7月に1億円と2年続けて大口寄付をいただいたこともあり、当会のご寄付は好調に推移しています。会員皆さまからのご支援に心より厚く御礼申し上げます。10月の米山月間もご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いたします。

4. 21年ぶりの来日で語った夢

ウガンダで活躍する米山学友、スチュアート・マクブヤ・センパラさん（2001-02/鹿沼RC）が来日し、9月21日に千葉県館山市で行われた「安房地域のウガンダ支援交流 30周年記念式典（主催：NPO 法人安房文化遺産フォーラム）」に出席しました。式典では、センパラさんが代表を務める「NGO ウガンダ意識向上協会（CUFI）」のこれまでの活動を報告したほか、支援者である安房地域の人々と感動の再会を果たしました。長期的な内戦により貧しい子どもや親のいない子どもが多いウガンダ。CUFIでは、こうした子どもやお年寄りに食べ物を支給し、教育支援や有機農業の指導などを行っています。



支援者たちと次々に記念撮影

ウガンダで活躍する米山学友、スチュアート・マクブヤ・センパラさん（2001-02/鹿沼RC）が来日し、9月21日に千葉県館山市で行われた「安房地域のウガンダ支援交流 30周年記念式典（主催：NPO 法人安房文化遺産フォーラム）」に出席しました。式典では、センパラさんが代表を務める「NGO ウガンダ意識向上協会（CUFI）」のこれまでの活動を報告したほか、支援者である安房地域の人々と感動の再会を果たしました。長期的な内戦により貧しい子どもや親のいない子どもが多いウガンダ。CUFIでは、こうした子どもやお年寄りに食べ物を支給し、教育支援や有機農業の指導などを行っています。

安房地域との支援交流のきっかけは、センパ

ラさんが初来日した94年、当時学んでいたアジア学院（栃木県）の研修の一環として、館山市にある女性保護施設を訪問したことに始まります。ここでの出会いをきっかけに、同市の高校生がウガンダ支援活動を開始。現在、

その支援の輪は、安房文化遺産フォーラムを中心に、安房地域の市民へと広がっています。

日本滞在中は、出身校であるアジア学院の50周年記念式典に出席したり、館山RCで卓話をするなど充実した日々を過ごしたセンパラさん。「皆さまのおかげで21年ぶりに来日し、活動を直接報告することができた。コロナ禍でウガンダの経済状況はますます悪化しているが、皆が食料に困ることなく、自立して暮らせる農場を作ることが私の夢」と語りました。

参加費は全額ウクライナへ支援となります。Web参加も可！

10/27 ウクライナ出身米山学友による講演のご案内

主催 大阪城南ロータリークラブ 協賛 吹田ロータリークラブ

ウクライナ支援講演

講演者



講演者のプロフィールはこちら

「ウクライナの現状と未来」

日時 2023年10月27日(金) 16:00(15:30受付)~18:00



戦火を逃れて現在デンマーク在住
テチアナ・セゾネンコ
Ph.D. Tetiana Sezonenko
■大阪大学大学院 理学研究所
高分子科学博士号取得
2017-19 ロータリー米山記念奨学生
世話クラブ 大阪城南ロータリークラブ
現在勤務先: FMCコーポレーション

※参加費はテチアナ・セゾネンコさんを通してウクライナ支援団体に全額寄付します。

参加申込は、
右記サイトを
ご覧下さい



<https://osakajonan-rc.org/ua/>

大阪城南ロータリークラブ事務局 ◆TEL.06-6796-9898 ◆email: johnan25@crocus.ocn.ne.jp